

平成19年度第3回協働事業評価会

平成20年2月8日午後2時00分

区役所本庁舎6階第3委員会室

出席者 久塚委員、鈴木委員、宇都木委員、内山委員、伊藤(清)委員、伊藤(圭)委員

事務局 河原地域調整課長、寺尾コミュニティ係主査、梅本主任、鈴木主事

久塚座長 第3回協働事業評価会を開催いたします。本日、定足数は足りております。

では、資料の確認を事務局お願いします。

事務局 それでは、本日の配付資料についてご説明させていただきます。

まず資料1、「夏目漱石生誕140周年記念事業」ということで、以前にもお渡ししましたが、改めて自己点検・相互間シートをおつけして提示しております。資料1の後ろ2枚が、今回新たに追加された資料になります。その後ろから2枚目を見ていただくと、19年度協働事業評価資料ということで、これは「夏目漱石生誕140周年記念事業」で19年度に行った実績が表になっております。

それから、次のページになりますけれども、こちらが委託契約をしたときの仕様書になっております。

続きまして資料2ですが、「夏目漱石生誕140周年記念事業」協働事業中間評価書。本日ヒアリングを実施する中で、各委員がお手元で記載していただく用紙になります。

続きまして資料3、「地域に根ざした高齢者の居場所づくり」各委員評価取りまとめ。これは、各委員からご回答いただいた評価書を事務局で1つのシートに取りまとめたものになります。少し補足させていただきますと、各項目の右側括弧書きで書かれている数字がその区分を選んだ委員の数になっています。

それと、下の四角のコメントについては、各委員が記載されたコメントをそのまま羅列したのになっております。

続きまして資料4、「外国人の子どもの学習支援等」各委員評価取りまとめ。こちら先ほどと同じように各委員の意見を取りまとめたものになっています。

続きまして資料5、「中学卒業後からの青年支援対策事業」支援会議取りまとめ。前回、各委員でまとめていただいた区分について反映して、なおかつ二重四角部分については、事務局で文章化したものになっております。

資料6、「子育て支援者養成講座」支援会議取りまとめ、こちらが資料5と同じ形になっております。

資料番号が振られているものは以上の6点になっております。

それから、追加資料について若干お話しさせていただきます。追加資料としまして、協働事業提案制度に関する課題ということで、参考資料としてお手元にお配りしています。これは各委員が記載していただいたコメントの中で、この制度全般にわたる部分について事務局で引き抜いて、最終的にこの制度のあり方を検討するときに使わせていただく資料として活用していくものです。最終的に各委員の意見を出していただいた段階で、全体にまたがる課題についてはこちらに抽出し、次回、この資料をもとに支援会議の意見として取りまとめていきたいと思っています。

配付資料は以上です。

久塚座長 では、今日の評価の進め方について、簡単に説明をお願いします。

事務局 それでは、事務局から評価の進め方について、ご説明させていただきます。

まず、事業の概要及び実施状況につきまして、提案団体から約5分程度でご説明いただきます。その説明の後、事業課及び提案団体から補足する説明がありましたら補足していただきます。その後に、事業課及び提案団体に対して、各委員から質問をしていただきます。それぞれの質問に対して団体もしくは事業課が回答する質疑応答の形で進行していきたいと思っております。

ヒアリングが終了しましたら、対象事業につきまして、それぞれ各委員からコメントをいただきたいと思っております。

そして最後に、団体及び事業課の退席後、各委員の意見交換をしていただきたいと思っております。

次に、支援会議の今後の日程についてご説明させていただきます。

次回の協働支援会議は2月18日月曜日に開催いたします。そして、今年度最後の支援会議を、3月14日金曜日に開催させていただきます。

それと、4月の日程についてご説明させていただきます。第1回協働支援会議につきましては、4月4日金曜日になります。場所は区役所6階第3委員会室になります。このときに新たな公募委員2名を入れた形で委嘱状の交付式がございますので、よろしく願いいたします。

そして、5月8日木曜日の第2回協働支援会議でNPO活動資金助成の第一次審査を行います。

以上までが、現在決まっている日程になっています。

第3回協働支援会議につきましては、NPO活動資金助成の公開プレゼンテーションになります。日程については改めて周知させていただきたいと思いますが、今のところ、5月22日木曜日を候補日として考えております。ただし、平日開催でいいのかどうかということを含めまして、最終回の協働支援会議にてご議論いただきたいと思いますと考えております。

以上です。

久塚座長 さらに議論すべきところを議論して、よりよい制度に向かっていくという年度が始まりますけれども、本年度、報告書をまとめるに当たって今日最後のヒアリングを行いまして、そして文章化されたものを徐々にまとめていくということになっております。

では、ただいまから協働事業中間評価の最後の団体になりますけれども、漱石山房及び文化国際課からご説明いただきます。まず、事業の概要及び実施状況について、提案団体から五、六分で簡単に説明をお願いします。

漱石山房 それでは、漱石山房の立場で概略だけご説明申し上げます。

私どもは夏目漱石の郷土の文豪・偉業を啓蒙し、特にその中で美しい日本語やあるいは日本人の情緒的な文化等を次世代に繋げていきたいということと、もう一つは夏目漱石の生誕の地であり終焉の地である漱石山房に記念館を設立したいという趣旨でスタートいたしました。

そして、たまたま新宿区とのコラボレーションの提案がございましたものですから、私どもは5つの事業を提案いたしました。

かいつまんで申しますと、1つは新宿区内に30校ございます小学校、特に小学校高学年の生徒を対象に出前授業を行います。

2つ目は生誕の地に漱石特設ギャラリーを立ち上げたい。これも期間限定で2カ月間、夏目坂の生誕の地で特設ギャラリーを開設いたしました。

それから、3つ目が夏休みを利用して親子で都電の旅をするというものです。東京都の交通局に交渉しまして、3回だけやらせてもらいました。都電を貸し切りまして、3日間だけ区民の父兄ともども都電を走らせながら勉強会をやりました。

それから、4つ目が講演会です。これは漱石の研究者あるいは教師等、漱石に関係する高名な方々も含めて講演会を行いました。これは1回行いまして、昨年10月に東大の小森陽一先生をお呼びしまして、サザンシアターで開催いたしました。

それから、現在予定しておりますが、漱石公園がリニューアルオープンいたしますので、

特設ギャラリーの第2回の開設を現在進行中です。

以上5つのことで私ども1年間担当いたしました。

久塚座長 どうもありがとうございました。

では、委員から質問させていただきますので、よろしくお答えください。

では、皆さん、どうぞ。

伊藤（清）委員 ご質問させていただきます。

出前授業の件なのですが、区内小学校30校を対象にして、現在7校実施したということですけども、これが7校になった原因。

それから特設ギャラリーの開設。協定書の中ではグッズ等の販売をうたっていますけれども、それがなされたのかどうか。

もう一点、私も楽しみにしていたのですが、大新宿まつりのときの坊ちゃん列車の展示ができなかったその原因を教えてください。

漱石山房 出前授業につきましては、学校側とのスケジュールがなかなか合わないということがございました。私どもは、当初、5・6年生の国語の時間に出前授業をしようと思ったのですが、小学校から歴史的な背景等もあるので、総合的にやってもらいたいとの要望がありました。それで、総合学習の時間を2時間ぐらいとりましてやりました。そしてその後、もっと子供たちに理解を深めてもらうために、漱石の一生を描いた紙芝居をつくりました。ナレーションをつけて子供たちに聞かせたり、質疑応答をしたりしまして、大変効果が上がりました。ですから、私どもできるだけ各学校を廻ってそれぞれ30分程度を押しなべてと思ったのですが、逆に学校側の行事のためになかなか時間があかないという状態もございました。そのようなことがありまして、3学期に入ってもやってほしいというところが幾つかございました。今は早稲田小学校への出前授業も予定しております。

それから、ギャラリーでのグッズの販売ですが、新宿の中村屋さんでオリジナルの月餅をつくっていただきました。2種類ありまして、1つは夏目家の家紋入りの月餅です。もう一つは漱石山房という文字の入った月餅。それぞれ6個入りのものを販売いたしました。大変好評でして、前回だけで300セットぐらい販売いたしました。

140周年のキャラクターの猫マーク入りのエプロンも販売いたしました。そのほかには絵はがき3枚セットや漱石のお孫さんの夏目房之介さんの書籍本等も販売しております。

それから、3つ目でございますが坊っちゃん列車でございますね。最初は4トン車とい

うことで設計に入ったのですが、具体的に話を詰めていきましたら結局11トンになってしまうということになりまして、戸山公園の中の道路が4トンまでしか通れないということで、11トンも重量があると道路を傷めてしまうので断念せざるを得なかったという経緯がございます。先々また機会があれば、またそういうことも計画してもいいかなと思っ

ています。

以上です。

久塚座長 はい、ほかの委員の方。では、宇都木さん。

宇都木委員 まず、この事業評価相互点検シートというのがありますが、これは両方で話し合って1枚のものをつくってほしいというのがこの委員会の要望なのです。それができなかったというのは何かあるのですか。

漱石山房 いえ、そういう感情的な問題ではありません。私どもも啓蒙活動をどう続けるかということを出発の当時に全部議論していたものですから、事業を提案したときにはかなり具体的なプランをもう持っていたのです。多少行政側のご要望もありましたので、十分議論をしながらできるだけ整理をしてうまく対応していただきました。ですから、行政とうまくいかないという話ではないです。

宇都木委員 ちょっと質問の仕方が悪かったのでしょうか。この事業を行政と皆さんとが協働して、どこが問題で、どういう結果になったか、今後どうするかということ

を相互に一定の段階で話し合って共通認識を持ってもらう。そして共通認識がなされたものをこの評価シートに書いてもらいたい。だから、その話し合いが十分できていなかったからそれぞれ別々に書いたのですか、ということですか。

そのシートを書くに当たっての話し合いは行政とされたのですか。

漱石山房 いや、それは一切やっていませんよ。

宇都木委員 では、行政のほうはどうですか。この評価がこのようになったいきさつは。

文化国際課 こちらに関しては、私どもの理解が至らなかったのかもしれないのですが、別々に評価をしてしまいました。それは事実です。ちょうどこの時期はたまたま秋の時期で、私どもも漱石山房の方もイベントの時期で非常に多忙ということもありました。しかし、それぞれこの個々のイベントのときはきちんと打ち合わせをしながらやりましたし、結果についての反省もしていました。そこら辺を踏まえてこれを書くときに当たっては、連絡が不十分だった点はあるかとは思いますが、意思の疎通はしておりました。

漱石山房 参考までに補足的に申し上げますと、私どものやっている事業には必ず行政

の方々来てくださっているのです。それで、中間でよりよくするためにという提案も私もいただいています。そういう意味でちょっと質問のところはそうですね、タイムラグが出てしまったかもしれないです。決して関わりなく別々ということはございません。

久塚座長 相互点検シートというのと個別のものがあって、相互点検シートというのは宇都木委員が発言したように、それぞれの立場というよりは、一緒に仕事をしていく上で協働というのがどうだったのか、うまくいったのかとか、いろんな角度から見ていくときに、それぞれの団体、それから事業課が自分たちのことを評価したり相手のことを評価するのはほかに、これは協働支援というような形で進んでいる事柄なので、行政とそのNPOなりが同じ土台に立って協働という観点から見たときにお互いにどうだったかなということを評価してほしいという趣旨なのです。

両方ともお忙しかったということは、今、事業課の発言があったのでそれは理解しますけれども、相互点検シートがそれぞれ出てきたら、最初の自己点検シートとあまり変わらないものになってしまいますよね。だから、両方が話し合っただったということを1本にまずまとめ上げてくださると、この委員会としてもさらに今後続けていることを展開していくときに、さらにいい制度につくり上げることができるので、これでNPOと事業課の仲がいいとか悪いとか、そういう個別の事例に使うのではなくて、このシステム自体をよりよいものにしようということで、反省すべきところは反省するというようなことで成り立っているものですからご理解いただければと思います。

漱石山房 ですから、座長さんがおっしゃるとおり私どものやっぱり反省しなきゃならなかった点は、これを書くに当たって、やっぱり行政の方と話し合っけちっと確認しながら書くべきだったかなと思いました。

久塚座長 ほかに質問はありませんか。

では、私、1点だけ。坊ちゃん列車が当初もうちょっと軽いと思っていらした理由はどういうことなのですか。最初から11トンということじゃなかったのですか。

漱石山房 それが我々のメンバーの中での情報交換が十分じゃなかったということだろうと思うのです。

久塚座長 2倍近い開きがありますよね。最初からそれぐらいの重さということがある程度わかっていれば、計画に入らない可能性があったのではじゃないですか。

漱石山房 ですが、東京都の公園の中の道路が4トンしかもたないということを我々全然知らなかったのです。普通の道路だと全然心配ないはずですけどね。あその中、車

道で車が入るのですが、4トン車以上は入ってはいけないということは、我々は認識外でした。その車道は、立派な舗装してありますから、素人目で見れば全然問題ない道路と思っていましたから、それが4トンの車しか入れないと言われまして、そうすると展示場まで運ぶだけでも相当費用がかかってしまいますので。

久塚座長 むしろ列車についての情報がある程度仲間で共有とか情報をもらえても、こちらだけじゃなくて道路の管理の話が出てくる。

漱石山房 ええ、その辺を事前に行政とお話しておけばよかったのですが、我々がそこまで実は気がつかなかったことは事実です。道路というのはそんな心配ないのだろう、どこでも運べるだろうという思いでいたものですから。

しかも、坊ちゃん列車の所有者といろいろ打ち合わせをして、運搬の話をしたときも、北海道に車で運んでいっているという話を聞いていましたので、運搬については全然懸念を持っていなかったというのが実態だったと思います。

久塚座長 そうですね。運搬車両の上にさらに載せて走っているわけだから、戸山公園のあそこにもできるだろうと考えがちですよ。ぜひこれから先も、もし機会が続くということであればやってほしいですね。一つの目玉だったから。

漱石山房 協働事業として、また我々の会としても何か進めていきたいなということは、今後考えていきたいと思っています。

久塚座長 ほかの委員の方、質問ありませんか。

宇都木委員 事業課の方に聞きたいのですが、漱石山房の評価は見られましたか。

文化国際課 はい。

宇都木委員 その上で行政のこの相互検証シートが書かれていると見ていいですか。

文化国際課 いえ、見てから書いたわけではなくて、見る前に書いております。

宇都木委員 すると、相互検証シートを行政が作成するに当たっては、当該団体との意見交換は全くないということですか。

文化国際課 このシートは調整を図らずに書いております。

宇都木委員 これの自己点検評価も見えない。

文化国際課 自己点検評価は見ていますが、うちのほうのシートを記入する前には見ていないです。

久塚座長 ですから、NPOがこれについてどう思っているかということが反映されたシートにはなっていないということですね。

文化国際課 はい、そうです。

久塚座長 ですから、せめてそういうことでもあれば、相手がどう思っているのかが反映されたシートになっているのだけれど、なかなかこちらを読みづらいことにはなっているわけですね。

文化国際課 すみません。

久塚座長 だから、1枚でやってくださいというのは、お互いに話し合いながらつくり上げていって、さらにいいものができますねという話に結びついていくのだと思うのです。

はい、伊藤さんどうぞ。

伊藤（圭）委員 出前授業なのですが、教育委員会と打ち合わせされたのか、個別の学校と直接交渉されたのか。

漱石山房 個別の学校とももちろんやっていますし、それから時々、教育委員会とも話しはしました。

最初、4月の時点で教育委員会主催の学校長さんを集める会議がありまして、私どもも出席させていただきました。そこで我々の計画をご説明し、ぜひご協力をお願いしたいというお話をしました。その後、個別に学校と話し合いをしたという形でございます。

伊藤（圭）委員 ありがとうございます。

久塚座長 ほかにご質問はありますか。

よろしいですか。では以上でヒアリングを終わりにします。お忙しいときにどうもありがとうございました。

漱石山房 ありがとうございます。

団体・事業課退席

久塚座長 では、今の「夏目漱石生誕140周年記念事業」について、委員相互の意見交換をお願いしたいのですけども。

事務局 すみません、事務局から1点補足させてください。今回の総合評価シートを作成するために、事務局も入った形でヒアリングの機会というものを設けさせていただきました。今回5つの事業が対象だったわけですけど、4事業については私どもが入った形でヒアリングが実施できたのですが、漱石山房につきましては日程が合わずヒアリングが実施できなかったという経緯があります。

久塚座長 では、それを前提としてご発言をお願いしたいのですけども。

伊藤（清）委員 やっぱ坊ちゃん列車の件が引っかかっています。それで、提案するとき、やはりいろんなことが絡んでくる。法令だけではなくて、地盤の問題だとかが調査されていなかったというのが非常に残念で、坊ちゃん列車が予算的にもかなり大きなものだったし、それとやっぱり呼び物だったので、ぜひああいうことのないように今後はしたいなという。

久塚座長 そうですね。だから、こちらのほうからもプレゼンテーションに対しての質問等、事前にかけておくということが必要ですね。

伊藤（清）委員 いや、今日のだけに限らず、前の団体のところでもやれると言った事業ができなかったりして、それで提携団体が手を引いちゃったとかいろんな問題が入っているので、来年度においてはやはりそこら辺を突っ込んでいかないと、また同じような轍を踏むのではないかと思いますけど。

久塚座長 できないところを他の団体がバックアップしようとしたのだけれども、団体が離れていくような場合についても、かわりの団体がサポートできるようなことがあれば、変わったから一概にだめだということにはならないようにしていかないと、協働事業というのは育っていかないだろうなとは思いますがね。

伊藤（清）委員 あとは自分のところでやっていくという方法もある。

久塚座長 基本はね。

伊藤（清）委員 そして、その団体が来たことによってそれ以上のものができるというスタンスであればいいのですが、そのあたりが団体が抜けると、自分のところもノウハウがないからできないというのはちょっとね。

宇都木委員 だから、今、行政に評価を聞いてみたのだけど、行政は最初の計画だけで後はノータッチなのかな。再三見に行っていると書いてあるけど、大きな計画変更が2つあるんですね。1つはこの列車でしょう、それと学校ですよ。

これは、当初計画が無理だったのか、それとも途中で変更せざるを得ない要因があったのか、評価のところに書いてもらわないと困る、行政の側も。

久塚座長 はい、事務局どうぞ。

事務局 この事業につきましては、事業課はほとんどすべての事業について現地に行っ
て対応しているという経過がございます。ただし、今回学校で言えば、提案した段階で教育委員会が入っていなかった。また、戸山公園の使用に当たっては、やはり都の担当部局でないと、なかなかそこまで詳しい内容がわかりませんので、事業課としては当初提案い

いただいた中身についてはできるという想定でスタートしたということがあります。

その提案までの事業課との事前打ち合わせというのはかなり綿密に行われないと、やはり提案いただいた事業と実施される事業が異なるということがあり得ます。18年度、当初一番初めの協働事業提案制度ということで、そのあたりの日程についても、若干今年度この制度が行われる中で考慮していかないといけないものだと思います。

ただし、今年度選定したものについては、スケジュール面では、ある程度事前に事業課と団体が協議する場を設けて、また協議する期間も一定の期間設けられていますので、今回ヒアリングしているのが初年度であったということもあるし、またその事前の部局をまたいだ、特に教育委員会が絡むような事業については、事前にかなり打ち合わせをしていないと、実施する際にいろんな障害が生じるという可能性もあり得ると思います。

以上です。

宇都木委員 それはいいのです。よいのだけれども、だからこそ、これからの留意事項で何が問題になったのかというところをちゃんと自己評価もしなきゃいけないし、相互に確認し合うこともしないと協働事業が伸びていかない。どっちの責任だとかではなくて。だから今後やる場合には、やはりそういうところまで必要だねというのが、お互いの共通認識にならないといけない。

変更を余儀なくされてしまったのはしょうがない。けど、変更せざるを得なかったことについての言及は、計画が甘かったのか、行き渡らなかったのか、そこまで気がつかなかったのか分からないけど、だってお金は全部使ってしまうのでしょうか。130万がどこかに残るわけではないのでしょうか。

事務局 本事業の中身については、契約変更しています。

久塚座長 だから、今回のものは前回ヒアリングした事業と反対で、提案団体がちょっと強いと。前回ヒアリングした事業は、相手がうまくやってくれないみたいな話が強いというものだった。要は、相手をお願いしても動いてくれないみたいなご意見があったのですが、今回のものはお願いすると言うよりはそれぞれがやっているというか、むしろ協働であれば列車のことであったり、授業に入っていくのであったりを事業課が何か知恵を出したり、あるいは話しかけてどういうことをしましたという回答があってもいいのだろうなと思っていたけど、今日は全部漱石山房が対応して、事業課は、うちはそこについてはこういうことを考えて、ここまでやったのですけどという回答がなかったのだね。それぞれ独立独歩だったのかなという気はしましたけどね。

事務局 事業が進行する間においても打ち合わせはかなりやっているのです。

さっき宇都木委員が言ったとおり、評価書にその記述がないというのは確かですけども、ただ、事前もそうだし、実施間についてもかなり打ち合わせだけはやっていたというふうに認識しています。

伊藤（清）委員 当事者間の打ち合わせと、それと第三者というのがいろいろ絡んでくるではないですか。そこを交えた話し合いというのがないような気がするのね。綿密に2つでやっているのはいいのだけど、それが空論になってしまうから、対象者も挟んで一応お話をしないと。さっきの出前授業を聞いていても、最初入れてもらう時間がとれなかったとかあるので。がちり年間の計画が決まっている中で、入っていけるという予測をしたわけだから、その予測が甘かったとか、教育委員会に投げかけるのが遅かったとか、そういう自己反省が欲しかった。

久塚座長 販売については伊藤さんが質問されたのですよね。

伊藤（清）委員 前の協定書にあったので、どれだけ売れているのかなと思って。売れたのなら今後どうするのかと本当は聞きたかったのですよ。これからも漱石のグッズを販売していくのか。そうすると、利益の幾つかがこのアンテナショップみたいなのをこれからやっていくから、そこで置いていくのか、目玉にして家賃のところへ補てんでいくのかとか、そういうこれからの見通しを本当は聞きたかったのですけど。

内山委員 そのグッズの販売で収入があるはずなのですが、それは支出の実費はどうなっていくのですか。

事務局 今回の5つの事業については、概算払いという形で契約書をとっていますので、最終的にその収益も合わせた形の精算行為によって支払額を確定するという流れになります。

伊藤（清）委員 家紋入りの月餅をつくったという実用新案ではないけど、そういう発想とかは中村屋とどんな形で結ばれているのかとか、ただ売ってもらったのはいいけど。そこら辺があると、もっと今後に対して明るい希望が持てたような気がします。

久塚座長 よろしいですか。ただ、各委員の中間評価書を書いてもらうのに少し難しい面もあるかもしれませんが、今の話を考慮して書き入れていただきたいと思います。相互検証シートはありませんけども、それからNPOの側がどう考えたのかということを見た上での検証シートになっていないということですが、事務局からあったようかなり綿密に打ち合わせをしながら実施しているということを踏まえて、各委員は決められた期日ま

で記入をお願いいたします。

では、次の議題に移ります。

取りまとめ、前回のものについて、資料3、資料4にヒアリングをかけたもの、前回の会議と同じ形で、まず四角で囲んでいるものは、各委員がコメントを寄せたものをそのままの形で中に打ち込んでいます。ただし、先ほど始まる前に事務局から説明ありました1枚、参考資料として最後に出てきたものなのですが、これはそれぞれの事業というよりは全体にかかわる事柄であるということから、お寄せいただいたコメントの中から、全体にかかわるものを引き出すという形で別に1枚つくっていますので、自分はこういう意見を出したのだけど、この四角の中に入っていないということがあるとすれば、抜き出されているという形になっています。

ですから、今から四角枠の中ではなく前回と同じように、まずは資料3を使って、評価の区分が何になるかということを確認させていく作業になります。

では、資料3をご覧ください。「地域に根ざした高齢者の居場所づくり」ですけども、それについて1、ニーズや課題のとらえ方について、 番と 番に分かれていますけどもいかがでしょうか。

宇都木委員 これは2、5なのだな。

久塚座長 ただ、どちらが多いとか少ないとかいう話ではなくて、区民ニーズ、課題のとらえ方で言えばということで、間に意見を落としにくいので各委員のご発言に任せますが。

伊藤さん、何かないですか。

伊藤（清）委員 ちゃんととらえているのはとらえているのですよ。それが、ある程度分析してその現状を把握しているということはあるのですが、それをどのように次の施策に結びつけていくかというのが問題になるので、私は区民のニーズ、それからそれ自体がとらえられているということからいけば、表面的にはとらえられているという立場をとっています。

久塚座長 「課題はあるが、ほぼ適切である」と、どなたがそこにチェックを入れたかは別として、下の四角の中をご覧くださいになりながらも、もしその点からの発言があったらぜひお願いしたいのですが。

宇都木委員 だから、高齢者の人たちがそういうものがあつたらいいねということに対するとらえかたは、それはそれでいいと思うのですね。ただ、その解決するということの

意味というのは、特定の人だけがそこへ来て満足すればいいという話ではなくて、地域社会づくりと繋がっていかないと意味ないと思うので、そういう意味でいうと、そこを利用している人たちがたくさん来たからそれでいいのかというと、数で評価すると利用者はたぶん少数だと思いますよ。

だから、そういうことを通じてお年寄りたちが安心して、あるいは居場所がある地域ということがみんなに知らされて、それがその地域の高齢者の人たちの一つの安心感みたいなものに繋がっていくようなこととして僕はこのニーズというのをとらえたいのですよ。

伊藤（清）委員 この間の話の中でも、今、宇都木さんが言われたように、対象としてはお年寄りにしたのだけど、結果として若い人等もきたと。それが結果としてではなくて、最初からそういう人も呼び込んで、一緒に地域の中で世代を超えてお話ができるという枠組みが欲しかった。そこが課題ではある。その展開ができていないということなのだけだね。

宇都木委員 数字的に言えば、高齢者の数から言っても利用者のほうが絶対的に少ないから。だから、そういう評価だとすれば、必ずしも十分かどうかというのはわからないけど、しかしそういうものを地域にはなくてはいけないと思っている人たちはたくさんいるだろうし、まさに現実にもうだと思えるから、そういうところに着目してこの事業をやって、将来的にはもっと広げていきたいということに対するものの考え方でいえばニーズに着目したということなのです。

久塚座長 だから、ただその先でそれがどのように展開していくかということまで実際には区民ニーズというのはあって、まちづくりの話になるのだということなのです。

宇都木委員 そう、私はそう思っているから、多分 になったと思うけど。まあ、それはそれで、いきなり同じレベルではなくてもいいのだから、ここは前向きに。

久塚座長 でもいいですか。

宇都木委員 でいいと思いますよ、前向きにとらえていきましょう。

久塚座長 では、1番については にします。

2番について「成果目標の設定」、これは 番でよろしいですか。

3、「協働の相手への期待とその成果について」、これも 番でよろしいですか。

4番です、「役割分担の決定方法について」、 番でよろしいですか。

宇都木委員 これ、皆さんどのように評価しますかね。つまり当初計画は3団体ですよ。でも、それが結果としてそうならなくなった。つまり役割分担はしたもののそれが実

現しなかったということにおいて、役割分担が適当でなかったと考えるのか、当初の、計画はよかったが、と考えるのか。評価としてはどのようにしたらいいのですかね。

事務局 座長、いいですか。

久塚座長 はい、どうぞ。

事務局 4番の役割分担というのは、このシートを作成する前提として、行政と団体との関係の役割分担ということで設定した区分です。

宇都木委員 わかっています。

事務局 ですから、確かに団体同士の役割分担というものも当然評価されるべきだとは思いますが、シートを作成した時点では行政と団体ということです。

宇都木委員 僕はそのことがあったから、ヒアリングのときに行政側に聞いたが、そして、居場所づくりとレストランがずっと並行しているから、それを繋げていけば大体方向性としてはいいのではないかと言うから、そうではないのではないかと思うのです。僕はこの事業はものすごくいいと思ったのです。三者の共同事業というのが、ものすごくよくて、これからの社会は単独だけではだめなので、一緒にいろいろな組み合わせがあっていいと思ったのだけれど、なかなかそこがうまくいなくて。行政側も多分その評価を最初にしたのだと思うのだが、途中で変更せざるを得なくなったことに対して、やはり、もう少し行政として心配してくれているんなことをやってくれたら、何とかあったのかなという気もするのですけど。

伊藤(清)委員 僕もそこを思ったのですけれど、とりあえずは今まで枠組みができていた。それで、役割分担も行政側とNPO側も決まっていたと。1つがなくなったことによって、穴ができたわけですね。それを埋めるのが、そのままなのか。それで役割分担というのはまた変わってくる。その穴の埋め方は、行政はこういう形で持ってきて3分の1埋める、では、NPOこれを埋めるためにどんなことをやって、開いてしまった穴をお互いに埋めるのか。僕はそういう話がこの役割分担の方向性だと思う。

久塚座長 では、コメントの中にそれを反映させるような形で。

宇都木委員 はい、それでいいのではないですか。

久塚座長 4番については ですよしいですか。

5番については 。

6番については 。

7番については 。

8番について、これは意見が分かれています。

宇都木委員 コメントで少しくアクセントをつけないといけないですね。

久塚座長 いや、これは非常に難しいところで、把握したつもりだろうけどという。例えば改善策に課題が残るといような指摘も。

では、 にして、四角の枠の中で生かすことにしましょう。

9番について、 。

総合評価C。少し厳しいですが、全員Cで一致していますね。かなりいろんな課題が出てくるのだろうというふうに考えています。

では、資料4を続けてご覧ください。事業名「外国人子どもの学習支援等」です。

1番目、「区民ニーズや課題のとらえ方について」、 番でよろしいですか。

2番目、「協働事業の成果目標の設定について」、これは少し分散しておりますが、ご意見ないですか。

宇都木委員 このコメントの中に、例えば数値目標とあるでしょう。だから、わかりやすくするには数値目標だけど、こういうのは数値目標になり得るのかという疑問があって、どういうふうに考えるかということだね。外国人の子供たちを一生懸命支援して、ここに住んでいてよかったとなるようにやっていきましょうという、そのようなとらえ方は、それはそれで適切だと思いますけど。着目点はいいとしても、成果目標となるとかなり広がるわけです。

久塚座長 2番目のコメントですよ。この場合の数値目標あるいは目標値という用語が出てきますけど、これはどのようなことなのか。

伊藤（清）委員 この場合、この間の話の中では参加者でとらえていたと思います。最初少なかったのが口コミで増えてきたというところをとらえていたようで。その来たい人たちが、どのようになっていったのかということがやはり成果の目標だと思うのです。

宇都木委員 この前の人たちのお話を聞いていて、やっぱり対象となる人は子供だけではないのだということを中心に強調されていて。最もそうなのですね、子供のことを子供だけでやってだめなので、親も学校も地域社会もと広くとらえることで、そこもどのような変化が起きてきているのかということも、成果として評価するのだとすればそこぐらいまで広げないと。子供の成績がよくなったから、参加者が増えたからいいというだけでは解決しない問題のほうが多く残ると思うのだけど。子供たちの成績がよくなったり、行儀がよくなったりするのが、それは子供たちの成果としてはあったとしても、それが当

たり前となるような社会にどう周りがしていくかということに関わる人たちの姿勢変化もやっぱり考えないといけない一面が、僕らの課題だろうと思うけれども。

久塚座長 だから、事前のプレゼンテーションで採択が決まるような段階での質問の時点では、どうしても時間が短くて、私たち自身も当面何人だとか、何回だとかいうところに少し意識が偏る場面もあるのですよね。それが、どのようになるのかという質問は、あまり今までかぶせてこなかったのだけでも、そこまでNPOにいろいろ要求していくと。

宇都木委員 否定的になってしまうことがあり得るからね。

久塚座長 うん。そこで一緒に何かやろうということについて、かなり難しい課題になるのですよね。それは本人たちが宣言するというよりは、やっているうちに自然に町が変わっていったり、団体が変わっていくということで、こちらなり行政なり、周りが観察して、変わってきたねという程度のことなのだと思いますけどね。

事務局 座長、いいですか。

久塚座長 はい。

事務局 こちらの事業なのですが、私も3回ほど現地に行って見てきました。確かに当初行ったときより子供たちは大分変わってきたと思っております。初めの頃は、まず子供たちが着席できない。要するに日本語教育、一般科目の教育ということでやっているのですが、まずその前提が成り立たないという状況でした。しかし、回数を重ねていくうちに、かなり子供の勉強に対する態勢についても変わってきたということは見受けられました。

また、親の参加なのですが、私は親子参加した回には行かなかったのですが、実際に子供と親を呼んで団体と意見交換をするという機会を設定しているという報告を受けています。

以上です。

久塚座長 では、2番については でよろしいでしょうか。

はい、コメントを使います。

3については、 でよろしいですか。

これもコメントを使う必要があるのだろうなと思います。この間、本質にかかわるような事柄のやりとりで少し大きな議論になりましたので。

宇都木委員 その辺は一生懸命やるが故に、NPOから見ると行政が何でもっと一生懸命にならないのとなる。その事業はいろんな部署に関わっていることなのに、担当課は一

生懸命やってくれたけど、どうも我々の思いがどこまで通じているのかわからないというのが、彼らの一番の思いみたいなものなので、そういうこともある意味では反映させてあげないといけないのだと思うのです。

久塚座長 そうですね。

宇都木委員 だから、それをどこかで示してしておかないと。行政も縄張りだとか縦割り、横割りの問題ではなくて地域社会では全部一緒だから、そこをどうすればいいのかというのをNPOにも考えてほしいし、行政にも考えてほしいという、両方に注文がつくところなのですよ。

久塚座長 そういう意味で、十分、不十分ということじゃなくて課題があるということになってくるでしょうね。 にいたしましょう。

4番、「役割分担の決定方法について」、これは。

これも不十分というよりは、課題のほうにしてコメントを入れてどうでしょうか。

宇都木委員 ここは、課題のほうにウエートを乗せてコメントで強調しましょう。

久塚座長 はい、4は にしますが、よろしいですか。

では、5番です。情報の共有、これは と に2名ずつなのですが。

宇都木委員 でも、それはさきほどのと同じですね。

久塚座長 そうですね。 ですね。

6番も、これもパターン一緒ですね、 ですね。

7番は です。

8番、これも 番。

9番も 。

そして、総合評価はCにしたいのですが、よろしいでしょうか。

この事業については、この事業がどうこうということだけではないようですけども、協働ということにかかわるような形でのコメントがたくさん出てくるのだらうと思います。

宇都木委員 これは、背景が広いのだよ。だから、対象部分がたくさんいて、いろんな階層の人たちがいて、だけどこういうことを一生懸命やろうとしている市民運動があるということは、今後評価すべきことだと思うのです。

であるが故に、そういうものに応えられる態勢をどうつくっていくかという意味で、不十分なところは前向きになるような、例えば行政がもう少し連絡を密にしてやればもっといい評価が出たのではないかとか、そういう成果が上がるのではないかと思う。

久塚座長 子供であり、国際でありという新宿にとっての大きな問題を抱えている、本当に象徴的な事業ではあるのですが、それを期待されるだけのことをやろうと思ったら、これは大変なことになってしまうので、活動としてやっているものをどう伸ばしていくのかということに光を当てるのが多分大事なのです。

宇都木委員 そうだと思うよね。

だから、そのためにもうちょっと応援があったほうがいいのではないかとか、もう少し支えてあげたほうがいいのではないかとか、もう少し広げたほうがいいのではないかとことだと思う。そうでないと伸びていけないと思う。

事務局 1つだけ報告させてください。一昨日になりますが、教育委員会が中心となりまして、区の担当所管、それから教育に携わる区内NPOの打ち合わせ会議というものの第1回目が開かれて、来年度以降の学習支援のあり方について検討していこうという話になりました。

宇都木委員 それは協働の成果だよ。結果、広がりが出たらね。

伊藤（清）委員 会議が開かれて、いろんな関わりがある部署がそこに本当に常にかかわって、アイデアを出して議論していけばいいものになっていきますよ。

丹委員 国の制度でも、外国籍の子供を支援していこうという方向が示されたか何かだと思うのですが、そういう意味ではこれからは教育委員会のほうも課題というか、実際、今回のJAIICAのOBの方たちもウェルカムだったわけですから、ニーズはあると思うのですよね。だから、うまい具合でかみ合うといいと思います。

宇都木委員 そうだね。

丹委員 ちょっともったいない感じがしますね。

久塚座長 もったいないね。単純によかったとか、お互いにできなかったからもうだめという話じゃなくて、何かこうしていきたいという気はするけれども。

宇都木委員 こういう活動をする市民団体がたくさん出てくることを望みたいよね。だから、それはこういう団体の協働モデルが出てくると他からも出てくるのだけれどね。そういうことなら、私たちもこの分は手伝えるとか、幾つかの組み合わせが生まれてくるとかね。

丹委員 そういう意味では今年選ばれた方々と、去年やられた方々とは連携できるような形になると思います。ニーズは多分かなりあると思うので。新宿区だからということもあると思いますから、うまく事業が展開できたらいいなと思いますけどね。

久塚座長 そういうNPO同士で、例えば活動資金の助成であっても、協働事業提案であっても一緒に動き始めるという芽は見られないのですか。

事務局 まだないですね。

宇都木委員 今、中間支援団体がいないのですよ。だから、子育て系の中間支援団体があったり、市民運動系、地域づくり・まちづくり系の中間支援団体があったりして、それでその中で情報交換したり議論したりして、そういうのがまだないのですね、日本の民主社会って、まだできたばかりだからしょうがないけど。本当はそういうことがあると、おのずから生まれてくるからね。それをどこが役割分担するかというのは難しいけどね。

伊藤（清）委員 NPO同士の持っているものが情報交換をして相互乗り入れ、例えばここだと地域に根差して子供たちないしは外国籍の子供たちに教えているというのと、今度は社会的なものに目が向いているから、そこと2つが違うほうを向いているから、それが一緒になると大きなものになる気がする。

宇都木委員 だから、この前、企業を卒業した方が支援する多国籍語のお子さんたちとこの子供たちがドッキングして、そうすると新しい展開じゃないですか。そういうのがあるといいよね。

事務局 一昨日の会議ではそれぞれ同席していましたね。どういう意見交換がされたかということまでは聞いていないですが。

宇都木委員 望まれることですね。

久塚座長 5年後、10年後に、ここで関わった子供たちが今度はNPOの活動に参加してくれると、いわゆるNPOにいろいろ助けられたとか一緒に何かやったというのではなくて、主体に変わっていくように仕掛けていかないとだめですね。

宇都木委員 そうですね、そうだと思う。それが文化だからね。だから、やっぱりそういうものも一緒にやらないといけないのでしょうけど。

久塚座長 ただ、何か利子はつかないけど貸してもらっているみたいな話で、こう返していくというのができれば何かいい形になっていくのだろうなと思います。

宇都木委員 活動の借り受けですね。

久塚座長 そうそう、そうだと思うのですけど。それは体の具合とかいろんなことがあってできない方もいるだろうけど、そこでそういう人たちに無理に強制するのではなくて、勉強も教える、ある程度行儀も身につけてもらうというようなことに留まらず、社会の中で生活していくというのはどういうことで、あなたたちだけが困っている人とか困難な人

じゃないのだよということが、何となく日本人の中でも大変な生活をしている人はいるわけだし、そのことを理解していくような活動にNPOが変わって行って、そういう意味での次世代育成というのができれば。

伊藤（清）委員 日本語では難儀しているけども、その人たちというのはどちらかと言ったら日本からお母さん、お父さんの母国も両方を踏まえているのだから、そこで日本語が達者になって、お互いのかけ橋じゃないけど、向こうのいいことをこっちで一生懸命広げるだとか、そんな活動をしてくれると素晴らしいNPOになる。

宇都木委員 でも地域社会は日本ももともとそうだったではないですか。

だから、そのコミュニティが壊れているから、もう1回まちづくり再建のために私たちはこの分野を頑張りましょうということだが、もう1回そこで今日のコミュニティがどうできていくかということですね。

久塚座長 変な話だけど、放っておいてもそういう社会はでき上がっていくものなのでしょうけど、教えないといけないということ自体がちょっと。自然にやってくれると思いますが、できるといいなという期待はしております。

では、資料5と資料6をご覧いただきたいと思うのですが、四角の中のつぶしてある部分は前回お答えいただいたものです。二重四角で囲んであるものが報告書に向けてのそれぞれの事業についての評価書のコメントということになります。少し改めてということになりますけれども、お読みいただいてこれでよいかどうかということです。

今日確定させる必要はありますか。

事務局 今日お持ち帰りいただいて、メール等でご指摘いただければと思います。

一応こちらも事前に各委員にお送りしていますので、宇都木委員からは、「てにをは」の部分については修正いただいて、それは反映しました。

久塚座長 そうすると、最終確定というのは3月になるのですか。

事務局 いえ、これは来年度継続するときに反映していただかなければいけないこと等がありますので、早く事業課にはフィードバックしたいと思います。

久塚座長 まずは資料5をご覧ください。

宇都木委員 座長、集約されていると思うのだけど、この例えば資料5の「中学卒業後の青年支援対策事業」というのをこの団体が提案しましたよね。それで、今回この協働事業として提案があった幾つかのところ、これが採用されたからと言って必ずしも100点じゃないのですね。

だから、つまりここに出てくることは、今回の提案の中では100点満点であれば100点満点とったところが採用されたのではないのだと私は思うのです。合格ラインが70点であれば70点のところもあれば80点のところもあると。全部が同じではないと思うので、そうすると、もともとの評価のあり方のところの基準というのもし議論したほうがいいと思うのです。今日、事務局から配ってくれました全体に共通する議論が、評価をやるときにある程度の評価基準みたいなもの、幾つかの大筋のところはこういうことだという考え方の幅をできるだけ狭めておくということも大切なのではないかとと思うのです。

協働なんていうのはものすごく熱心で、できるだけ市民参加協働というのは市民が主体になったほうがいいのだし、自治体が言う自治の拡大あるいは、市民が自分たちが自らのまちづくりをやるという、自治体が提案していることと市民の側が提案することと同じ言葉を使っても、置かれている状況が違っていると少しずつ思いが違ってくるのだと思うのです。ましてや市民運動というのは小さな単位が多いから、その部分でものすごく熱心だけど周りのことはあまり考えないでやってしまうところがあるではないですか。

だから、今度なんかのいい例が、3つの団体で居場所づくりなんかあったけど、そういうことも考える余地のある事業なのだというのがあったら、多分評価のところ意見としてはつけたほうがいいところではないのかね、前向きに発展していくために。

だから、そういうように考えて意見を出すか、それともそれだけ単独で完結させるということにするのかというのは、それぞれの人の思いでちょっと違うのだと思うので、少し議論したほうがいいのではないかと思います。

久塚座長 それを単独の事業の中にこうすればさらにどうなるよという形の書き方をするのかですね。今年やった5つあるいはもっと広く協働事業というようなものに向けた形で一般論的なものを述べながら、今年の5つの事柄を総論の中で触れていくということをやるかですね。

宇都木委員 いきなり言ってもなかなか難しいけど、一歩ずつ進んでいくためには、今年度の協働事業評価をやったことから言えることとして、そういう総論で幾つかの特徴的なところで、前向きにやっていくためには相互連携が必要だとか、もう少し他の分野にも目を向けた協働のあり方というのも考えるべきだということがあっていいのではないかと、いわば前向きなコメントが出てもいいのではないかと私は思うのです。

伊藤(清)委員 そういう面ではゆったりーの事業の中で講座などいろいろあって、その講座もいい講座だという。何かの折にはそれをとりあえずはやった人に声をかけていく

とか、そういうのがやっぱり単独事業として見るのも1つだけど、それが波及効果として繋がっていくというところにやはり全体の評価をしていってもいい。

宇都木委員 いや、広げていくというか、より効果が出るような。

伊藤（清）委員 そうそう。

宇都木委員 前に向かっていく積極性が、みんながもう少し自分たちの事業だけでなく周囲のことも考えると、より自分たちの事業というのが有効になるしくローズアップされるわけではないですか。

そういう視点で評価のあり方というのを少し考えて、市民に対する提案というか、いかがでしょうかと、私はそう思うのです。

久塚座長 もっともだと思います。そういう意味では、今日出た二重四角のところについては、例えば1番の「事業における区民ニーズや課題のとらえ方」というのも、そこだけでコメントしていますけれども、よりよい協働事業であるためにはこういうものが求められるというようなところを少し色濃く出すようなものになっていくのでしょうか。

そこで、この2つについて、それを今からやるのはちょっとしんどいので提案ですが、これを今度は事務局とまとめていくのですが、今日の一重四角で困ったものについては、二重四角で困むのをつくるに当たってどういうふうによればいいのかというアイデアがあったら出していただくというのが1つ。

それで、もう一つは、今日5つ目のことについて書いてもらいますけど、そのときのコメントは、先ほど宇都木委員が言ったようなことを念頭に置いて、さらにこうしたらよくなるのではないかなというようなことにも光を当てていただければと思います。

事務局 座長、いいですか。

久塚座長 はい。

事務局 私がまとめる中で、総合評価のところ委員の皆さんが既に書かれていると思います。今後その団体が事業を継続するに当たって要望したいこととか、こういう課題を反映すべきだとか、かなりその後のつなぎの部分についても各委員触れられているのではないかなというのは感じました。

久塚座長 そうですね。ですから、今年の5つの事業は、すべての項目についてそういうふうには多分できないと思うのです。ですから、報告書をまとめるときに、総論のようところで、5つの事業それぞれについて少し関係をさせながら、よりよい協働事業になるような形の報告書をつくり上げていくことになります。

それから、一番最後の総合評価のところで見えるような形でのコメントに仕上げていくという方向をとりたいのですが、よろしいですか。

宇都木委員 はい。

久塚座長 では、そういう意味で具体的に資料5及び資料6の中でご意見がありましたら、お願いいたします。

宇都木委員 資料6のほうなのですが、これはどっちかと言ったら協働事業というのにはちょっと軽過ぎるというか、質的な問題として、助成事業で十分ではないかと思うのです。選ぶときにはなるほどと思ったけど、やはり到達点から見ると、この事業のこれやってきた経過だとか話を聞いてみると、少し協働事業というよりもどちらかという助成事業でももう少し積み上げて、次のステップのところには協働事業というのをつくっていったらどうかというのが私の意見なのです。これは皆さんの意見を聞かせてもらえばと思いますが。

久塚座長 資料6の7ページの一番最初に記述されているとおりですね。真ん中の段落については期待したいと。それで最後、検討してほしいという要望が出ているので、まず一番最初のブロックの。

事務局 座長、いいですか。

久塚座長 はい。

事務局 資料6ですが、書いていて幾つか確認したいことと、あと少し文言を加えたほうがいいのではないかといいところがありましたので、少しお話しさせていただいてよろしいでしょうか。

久塚座長 そうしてください。資料6ですね。

事務局 まず4ページ目なのですが、アンダーラインを引かせていただきました。もし趣旨が違ったらご指摘いただきたいのですが、「現場の状況を前にしての意見交換」ということがあります。多分この現場の状況を前にしてというのは、現場の状況を踏まえた意見交換という解釈でいいのでしょうか。というところが1つ気になったところと、あと7ページの総合評価のところなのですが、一番最終行から4行目、「参加人数から考えると」というところなのですが、多分ここ以下は各委員強調したい部分と全体を見ていて思ったので、「最終的に当委員会の要望として」という文言を「参加者人数」の前に入れていただいて、要するにこれが単独の講座だけではなくて、参加修了者に対して継続的な仕組みになるのであれば、私は協働事業でいいのではないかと思うのですが。ただ、それがいい

と補助事業でもいいのかなという気はしました。

ただ、つなぎをつくるということは、多分協働事業でないと、ある程度区側のいろんな事業課のほうに繋がりはつかないのではないかなと感じました。

したがいまして、参加人数の前に「最終的に委員会の意向から」という文言を入れて、最後の4行を少し誇張していただいたほうがいいのかなと感じたのと、この2点です。

伊藤（清）委員 「この現場の状況を前にして」というのは、僕かもわからないのだけれど、その現場でという意味。

これはただ報告をもらってという意味ではなくて、現場でやっていないしはそういうことが起こっている、そこでという意味なのですけど。

事務局 ということは、これは講座の中でということですか。

宇都木委員 そうそう。そこでという意味ね、現場でという意味。その前のこの報告書によってというところ、そこと対比して。

事務局 はい、わかりました。その中でということですね。

丹委員 2点目の4行のところの書き方でいうと、例えば新宿区の認定の要件とかがあのようなお話があったと思うのですけども、新宿区の企画として講座修了者が使われるように将来なっていく可能性があるとか。

事務局 いろいろな課題があるにせよ、そういう方向性を検討してほしいということで、当委員会から出ているのかなという気がします。

久塚座長 では、文章をちょっと間に入れた形で読み上げてもらえます。

事務局 はい、後ろ4行でいいですか。「最後に、当委員会からの要望として、参加人数から考えるとかなりコストが高い事業だといえる。受講者同士のネットワークづくりができたことなので、講座修了者に対して、効果的・継続的なフォローアップの仕組みづくりを検討してほしい」という言葉でいいでしょうか。

久塚座長 よろしいですか。

丹委員 だれが検討するのでしょうか。

事務局 これは団体と事業課、双方ということですか。

久塚座長 ほかにコメントの箇所で、よろしいですか。

今日のまとめと同じ段階で校了のような形をとりたいので、事務局に申し出ていただいて、それを反映させたものを18日にもう一度見せていただくと。18日確定版になるのがこれと、今日の一本線で囲んだ四角の中ですね。各委員、よろしいですか。

では、本日の議題は以上で終わりになります。

日程等について事務局からお願いします。

事務局 はい。次回の開催は、2月18日月曜日2時から3階の301会議室が会場になりますので、そちらに直接おいでいただければと思います。

久塚座長 では、今日はこれで支援会議を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

- - 了 - -